特別支援学級と通常の学級との連携シート（試案）（連携型個別の指導計画表）【記入例】

上段　原学級　下段　特別支援学級

（１）各教科等の内容　　　　　　　　　　　　※　○…原学級と特支が共通して行う支援

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ３年　組　氏名○○　　　　　　　作成者：△△　（　年　月～　月） | | | | |
|  | | ねらい | 支　援　方　法 | 評　価（今後の方向） |
| 日常生活  行　動 | | 〇授業が終わったら，前の時間のものを片付けることができる。    〇2時間目の休み時間の終わりには教室にもどることができる。 | 〇机の中の整理の仕方について写真に撮り，視覚的に示すようにする。  〇休み時間の初めには担任が声をかけ，終わりには友だちに声をかけてもらうようにする。楽しく遊べたことや時間を守ったことを認め，意識できるようにする。 | 〇写真を見ながら整理することができました。気持ちが乗らないときは手伝うことがありました。  〇トラブルがなければ，時間通り帰ってくることができました。楽しく遊べることが増えました。トラブルへの対応が課題です。 |
| ・授業の終わりのあいさつの前に机の上の片づけを行うようにする。 | ・挨拶の前に机を片付けると，すぐに遊びに行けてよいと本人がこの方法を選択するようになりました。 |
| 対人関係  ・  全ての欄を使うのではなく,交流及び共同学習ができそうな項目のみにする。  コミュニケーション | | 〇嫌な時やわからないときには，自分の気持ちを穏やかに周りの人に伝えることができる。 | 〇落ち着かなくなってきたときは「落ち着けカード」を渡し，自覚できるようにする。  ・本人の言いたかったことを周囲の人が代弁しながら，適切な表現に近づけるようにする。  ・「困ったカード」を出したら援助をする。  ・昆虫や生き物への興味を生かし，発表の機会をとる。 | 〇落ち着けカードにオニヤンマの写真を貼り，初期のうちに渡すと落ち着けることが多かったです。  ・「困ったカード」はなかなか使おうとしませんでしたが，忘れ物をしたとき一度だけ使用しました。 |
| ・SSTで行った内容を繰り返し示すとよいことがありました。「聞いてほしいことがあります」と自分で言えたことがありました。 |
| ・ソーシャルスキルトレーニングを実施し，自分の気持ちの表現の仕方や，カードの使い方について練習する。 |
| 教  科  等 | 国  語 | 〇小学校3年生の内容に準ずる。 | ・発言の機会をできるだけ毎時間とるようにする。適切な言葉が浮かばないときには，援助し，表現する楽しさを大切にする。 | 〇「○○は友だちがほしいんじゃないかな」という発言をし，友だちが共感してくれたことで，以後率先して発言しました。 |
| ・自分の思いを表現できるようになる。 | ・作文，日記は「うれしい」「悲しい」などの語句カードを使って気持ちについても書けるようにする。 | ・運動会の作文では１位になれなかったことを「くやしい」とカードから選び書くことができました。 |
| 算  数 | 〇小学校3年生の内容に準ずる。  〇１０分程度は計算問題に集中して取り組むことができる。 | ・計算問題は少ない量をまず提示し，終わったら残りの問題に取り組むようにする。 | 〇学期の初めは３問程度の計算から始めましたが，「もう少し頂戴」というようになっています。 |
| ・ひっ算は慣れるまで，色分けしてあるマス目の計算用プリントを用意し，原学級でも使えるように練習する。 | ・ひっ算ノートを使うと間違いが少ないことから，計算練習に意欲的になってきています。 |
| 社  　会 | 〇班の友だちと一緒に調べたことをまとめ，発表することができる。 | ・仲の良い友だちと同じ班になるように配慮する。  ・地図などは先に薄く下書きしたり，色を塗る範囲を囲んだりして安心して取り組めるようにする。 | 〇友だちのまとめのノートを参考に自分も書き込む姿がありました。本時に記入する箇所に印をつけると安心するようです。 |
| ・新しい単元に入るときに単元の内容についてあらかじめ資料を読んだり，地域のことについて話し合ったりして見通しがもてるようにしておく。 |  |
| 理  　　科 | 〇昆虫や植物などの興味や知識を生かして，班や学級の友だちに教えることができる。 | ・本人の知識や取り組みを他の児童に知らせるようにし，得意な点をクラスで生かせるようにする。 | ・昆虫の種類や様々な特徴を班の友だちに発表することができました。 |
| ・次の時間に行うことを予告し，楽しみにできるようにする。 | ・次の授業について少し予告するだけで，とても楽しみにする姿がありました。 |
| 体  　育 | 〇ルールを理解し，友だちと一緒にゲームに参加できる。  〇必要に応じて友だちにボールを渡すことができる。 | 〇チームの友だちとルールの確認をするようにする。ゼッケンやタスキを活用し，チームが分かるようにする。思い通りにできず気分が優れなくなったときには少し休むようにするとともに，うまくいったときにしっかりと認めるようにする。 |  |
| ・新しい単元に入るときには少し体験したり，ルールやコツを確認したりしておく。  ・キャッチボールなど，相手に合わせるとうまくいく運動を行う。 | ・キャッチボールでは，友だちによっては優しく投げる姿が見られました。 |
|  | 音  楽 | 〇リコーダーの演奏を楽しむことができる。 | 〇リコーダーの練習を教師と一緒に行う。穴をふさぎやすいようテープを貼るとともに，絵音符を使ってわかりやすくする。１曲できるごとにシールを貼り，達成感がもてるようにする。 |  |
| ・事前に曲を聞いたり，練習をしたりして，見通しがもてるようにしておく。指使いなどの調整を個別指導で行う。 |  |
| 図  工 | 〇様々な色を混ぜて楽しみながら絵を描くことができる  〇絵の具の使い方がわかり，出したり片付けたりすることができる。 | ・全体の構想を考えるときに，友だちのアイディアや工夫の発表の時間を設ける。構想や下書きまでを原学級で行う。手順表を渡し，全部塗ったらおしまいなど，見通しがもてるように支援する。 |  |
| ・絵の具を並べながら混色し，自分の塗りたい色を選ぶことができるようにする。  ・準備や片付けは，方法を示したカードを使って，できるだけ一人でできるようにする。 |  |
| 総  合 | 〇大好きな生き物への興味を生かして，調べ学習をする。同じ課題の友だちと分担して調べることができる。 | ・写真や地図などを使ってまとめる方法を提示し，調べたことをまとめやすくするための援助をする。 |  |
| ・本人の話を聞いたり，集めた資料を見ながら一緒に整理したりし，発表する意欲がもてるようにする。 |  |
| 道徳  ・  特活 | 〇小学校3年生の内容に準ずる。 | ・教材の話が把握できるように，挿絵や吹き出しを使ったり，実際に動作化したりする。  ・行事については予定をしっかりと伝えるとともに，本人と一緒に目標を設定するようにする。 |  |
| ・行事については時間や絵，写真の入った予定表を渡し，見通しがもてるようにする。  ・落ち着けカードや困ったカードを使えるように確認を行う。 | ・行事の予定表により，予定を班の友だちに教えることができ，落ち着いて楽しく参加できました。  ・困ったカードの使用は少ないですが，いざという時に使えることで落ち着いていました |
| その他 | 〇給食当番などの仕事をやり終えるまで取り組むことができる。 | ・当番としての仕事をカードにして渡し，自分で確認ができるようにする。よくできているときの姿を本人と確認する。 | 〇給食当番はあまり好きではないようですが，カードを見ながら一通り取り組む姿がありました。 |
| ・掃除は特別支援学級で行い，物差しを使って拭き進んでいくことで，仕事の進行具合が把握できるようにする。 |  |

（２）育ちの姿　（両方の学級が相談して育った姿を書く）

|  |
| --- |
| 〇特別支援学級での励ましや，予告，練習等により次第に自信をもって取り組めることが増えてきました。予定表が特に役立ち，今までやり通すことが難しかった当番の仕事などもやり通すことができました。原学級の友だちに認められる経験により，穏やかに自己表現できることが多くなっています。今後も原学級，特別支援学級で相談しながら，○○さんのがんばりを支えていきたいです。 |
|  |

（３）必要とされる合理的配慮

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 必要とされる合理的配慮 | 配　　慮　　内　　容 | 評　価（今後の方向） |
| 〇予定や手順などを示し，見通しをもつことができるようにする。  〇自分の思いを適切に伝えることができる。 | ・授業の際には授業の流れを掲示する。作業などの手順は手順が分かるように箇条書きと絵や写真の入ったプリント等を用意する。  ・本人と気の合う友だちとともに活動できるように班分けなど配慮する。よいかかわりのできる友だちの様子をクラスに伝え，ほかの友だちも意識できるよう促す。  ・「困ったカード」を使い，うまく伝えられないときは援助が求められるようにする。不安定になった時には「落ち着けカード」を渡し，自分でコントロールできるよう援助する。 | ・手順や予定が書かれた紙はとても頼りにしており，そのためか給食当番や日直の仕事などにも取り組むことができました。  ・班の友だちが，「Aさんよくがまんしたね」など認めてくれたことをきっかけに友だちとの関わりが増え，原学級で穏やかに表現する姿が見られました。  ・落ち着けカードは不安定になる初期の頃に渡すと自分で自覚してコントロールすることがありました。 |